⟨人間に生まれ変わるため人生２周目を生き直していた 近藤麻美⟩

⟨薬剤師になったことで…⟩

(麻美) 飲むのやめてくれる？

⟨祖父の命を救ったり同級生の玲奈ちゃんの 不倫に気付き…⟩

(麻美) 既婚者なのね｡

(玲奈) てめぇ 結婚してんじゃねえかよ｡ ⟨阻止したり⟩

⟨そんなある日⟩

(麻美) 油断した～！

⟨そこで告げられた来世は…⟩

(受付係) ニジョウサバですね｡

(麻美) もう１回やり直しっていうのは できない…？ >> できますよ｡

(麻美) え？

⟨まさかの人生３周目が スタート⟩

⟨テレビ局に入社し ドラマを制作しながらさらなる徳をゲットするために 奮闘中です⟩

(麻美) 最高｡

(麻美) ⟨テレビ局に入社して ５年が経った⟩

⟨はっきりと出社時間が 決まっているわけではないけど大体 みんな 12時前には出社する⟩

⟨私は 上司が 12時くらいに来るので11時くらいには出社する⟩

⟨ちなみに…⟩

(小田) おはよう｡

(麻美) おはようございます｡

⟨上司には 10時くらいから 来ているふうな顔をする⟩

⟨これが 10時くらいから 来ているふうな顔⟩

あっ｡

決定稿 届きました｡

(小田) サンキュー｡

チェックした？

(麻美) はい｡

📱(着信音)

(麻美) はい～ 着いた？

ＯＫ 今 行く はい～｡

⟨会社に着いて ひと仕事終えると13時くらいから おのおの 昼食を取る⟩

♪～

(麻美) ⟨パスタ 牛たん アジア料理 インドカレーなど東京は選択肢が多い⟩

⟨今日は ごんちゃんとアジア料理⟩

(美佐) 会社の中って 食べる所とかはないの？

(麻美) 一応ね 社食があるよ｡ >> あっ そうなんだ｡

(麻美) 視聴率いい時とか タダになるの｡ >> めっちゃいいじゃん！

(麻美) 私は ほとんど行かないけどね｡ >> 何で？

(麻美) だってさ 社食だとさ 仕事の愚痴とか言いづらくない？

>> 確かに｡

(麻美) うん｡

ねぇねぇ ごんちゃん 西中の誰かと会ってないの？

(美佐) 私はね ぺーたんくらいかな？

(麻美) あぁ ぺーたんか 今 何やってるの？

>> 新三郷のＩＫＥＡで働いてんの｡

(麻美) そうなんだ 今度行ってみよう｡

⟨｢ぺーたん｣とは…⟩

(美佐)〔加奈っぺ 加奈っぺ！〕

(麻美) ⟨小･中の同級生島本加奈子ちゃんのことで最初は ｢加奈っぺ｣と呼ばれていたのが⟩

(美佐)〔ねぇねぇ ぺー加奈〕

(麻美) ⟨｢ぺー加奈｣になりその後 ｢ぺー｣だけが残り｢ぺーたん｣と 呼ばれるようになった⟩

⟨ちなみに ｢ごんちゃん｣と｢ぺーたん｣は私たちの学年の２大 原形をとどめていないあだ名⟩

⟨ところで今は ７月期のドラマ“家売るオンナ”の 準備の真っただ中⟩

>> 今日 衣装合わせ何時からだっけ？

(麻美) 15時｡

よいしょ いただきます｡ >> いただきます｡

あのさ 私 いっつも思うことが あるんだけどさ｡

(麻美) 何？

衣装合わせが始まる前にさ毎回 スタッフ全員が演者囲んで順番に 自己紹介する風習あるじゃん｡

(麻美) あれ意味 分かんないよね｡ >> だよね！

そうでしょ？

(麻美) あれだけは ずっと謎｡

あんなさ 流れ作業で名乗られても 絶対に覚えらんないじゃん｡

(麻美) しかも あれ以降 名乗ることないしね｡

>> そうなんだよね｡

(麻美) うん でもさあれだけはさ どんな大御所でも文句言わずに ちゃんとやるんだよね｡ >> ねぇ～｡

不思議な風習だよね｡

(麻美) ⟨こんな話 社食ではできない⟩

⟨そういえば…⟩

〔うちらも ｢おかえりなさい｣にする？〕

⟨市役所時代も 社食では絶対に食べなかった⟩

(助監督) え～ それでは ご紹介させていただきます！

屋代課長役の 仲村トオルさんです！

よろしくお願いします！

(仲村) よろしくお願いしま～す｡

(拍手)

(助監督) スタッフの 紹介させていただきます｡

チーフプロデューサーです｡

伊藤です お願いします｡ >> お願いします｡

(助監督) 監督です｡ >> 猪股です お願いします｡

よろしくお願いします｡

(助監督) プロデューサーです｡

小田です お願いします｡ >> お願いします｡

(助監督) では そちらから順番に｡

(麻美) ＡＰやらせてもらいます近藤です よろしくお願いします｡ >> お願いします｡

(麻美) ⟨これが噂の衣装合わせ⟩

>> 助監督 春木です お願いします｡ >> お願いします｡

記録の塩川です｡

(麻美) ⟨毎回 この光景を見ると…⟩

>> ﾍｱﾒｲｸ 丸山です お願いします｡

(仲村) お願いします｡

同じくメイク助手のありがちです｡

(仲村) お願いします｡

(司会) さぁ 全員の自己紹介が 終わったところでそれでは参ります まずは こちらの方｡

この方の部署と名前をどうぞ｡

音声の… 吉田さん｡

音声の吉田さん さぁ どうでしょう？

♪～

あぁ！

(司会) 残念！

正解は…｡ >> 照明の金森です｡

(司会) 照明の金森さんでした！ >> あぁ…｡

(小田) こっちの色のほうが いいと思います｡

これで｡

(麻美) ⟨こういうのを想像する⟩

⟨私たちの仕事は 朝が遅い分夜は割と遅くまで働く⟩

⟨いいのか悪いのか 分からない⟩

⟨多分 肌には悪い⟩

📱(着信音)

(麻美) ん？ 📱(着信音)

(麻美) どうしたの？

うん うんうん｡

今 家だよ｡

１人｡

今ね 洗濯物 畳んでた そうそう…｡

そうそう あしたはね昼から うん｡

ん？ 窓？

えっ 何？ 何 何 怖いんだけど｡

どういうこと？

(麻美) え？

お～！

(美穂:夏希) お～い あーちん！

(麻美) 何で？

(美穂) 来たよ～｡

(夏希) イェ～イ｡

(麻美) ヤバい～｡

(夏希) ヤバいよね～｡

(麻美) シ～｡

何 何 何… 急に｡

(夏希:美穂) イェ～イ｡

(夏希) ビックリした？

(麻美) ビックリしたよ｡

(夏希) 今日 久しぶりにね ２人でごはん食べてたんだけどあした ２人とも休みだから｢東京 遊び行っちゃう？｣ ってなったの｡

(美穂) そしたらさ なっちが急にさ ｢だったら あーちん家行っちゃわない？｣って言い出して ノリで来ちゃったんだよね｡

(麻美) 遠かったでしょ？

(夏希) いや 高速使ったら２時間かかんなかったよね？

(美穂) うん 意外と早かったよ｡

(麻美) え～ 言ってくれればさ ちゃんと準備したのに｡

(夏希) ビックリさせようと思ったの｡

(美穂) ねぇ｡

(麻美) うれしいけどさ｡

あ 家 布団ないよ？

(美穂) いいよ 何か適当にこの辺で寝るもん ね？

(夏希) うん｡

(麻美) ホント～？ 平気？

(夏希) 平気 平気｡

３人で仲良く床で寝よう｡

(美穂) うん｡

(麻美) え？ 私はベッドで寝るよ｡

(美穂:夏希) え？

(夏希) ３人で雑魚寝しようよ｡

(麻美) 何でよ ベッドがあるんだから ベッドで寝るよ｡

(夏希) うわ 東京出て変わっちゃったね｡

(美穂) ノリ悪くなったわ｡

(麻美) これは別に 東京のノリとかではないよ｡

あ じゃあさぁ ジャンケンで決めようよ｡

(夏希) ジャンケン？

(麻美) うん 私は別にさ床で寝るのが嫌なんじゃなくて ベッドがあるのに誰も使わないっていうのが 意味分かんないってだけだからジャンケンで勝った人が ベッド使うってのはどう？

(美穂) あ～ なるほどね どうする？

(夏希) いや うちらは別に ベッドで寝たいわけじゃないのよ｡

あーちんと３人で床で寝たいのよ｡

(麻美) 何その願望｡

(美穂) ていうかさ 何か かけるものとかある？

(麻美) 毛布とタオルケットならあるよ｡

(美穂) あ ホント？ じゃ いっか｡

(夏希) てかさ あーちん ごはんとかどうしてるの？ 自炊？

(麻美) 最初の頃は やってたけどね｡

最近は全然だね｡

(夏希) じゃ コンビニ中心だ｡

(麻美) ん～ それか あとは外食だね｡

(夏希) あ～｡

(美穂) まぁ そうなるよね｡

(夏希) こっちはお店もいっぱいあるしね｡

(麻美) そうなんだよね｡

(美穂) ありがとう｡

(夏希) いただきます｡

そういえばさ 同級生で こっちにいる人いないんだっけ？

(麻美) あっ そう あのね…｡

(美穂) うんうん｡

(麻美) ていうか ごめん なっち その前にさこの袋のお菓子を そろそろ紹介してもらえる？

(夏希) ん？ あっ これ？

(麻美) うん｡

これってあれでしょ ３人で食べるために買ってきてくれたやつだよね？

(夏希) うん｡

さっき そこのコンビニで買った｡

(麻美) よかった｡

ありがとね｡

(夏希) うん｡

もう 食べる？

(麻美) 食べるのは別に後ででもいいの｡

だけどさ こういうのって大体 来てすぐにさ｢お菓子買ってきたよ｣って 紹介するじゃん｡

(美穂) まぁ 普通そうだよね｡

(麻美) うん｡

そう… ず～っと見える場所に 置いてあるのに全然触れないからさ 気になっちゃって｡

(美穂) うん 私も｡

なっち 何も言わないな とは思った｡

(夏希) あっ マジで？

(麻美) しかも こっちからは 触れられないじゃん｡

(美穂) 結果 触れたけどね｡

(麻美) 触れた 限界だった｡

(夏希) そっか ごめんごめん 忘れてた じゃ 出しま～す！

(麻美) ありがとう！

(美穂) 甘いものから しょっぱいものまで 取りそろえておりま～す！

イェ～イ｡

(麻美) めっちゃ買ってきたじゃん｡

(夏希) そう いっぱい買ってきた｡

(麻美) うわ ヤバ～い｡

いいね～ やっぱ２人のお菓子センスは信用できるわ｡

(夏希) あ ホント？ よかった｡

食べよう 食べよう 食べよう｡

(美穂) ねぇ そういえばさなっちの紹介しない問題って 昔もあったよね｡

(夏希) えっ いつ？

(美穂) ほら 中学の時にさラウンドワンで ３人で遊んでたらなっちの塾の友達に バッタリ会ったの｡

(夏希) 塾の友達？

(麻美) あったね｡

(美穂) あったよね！ そしたらさ なっちがその子を特に紹介しないまま うちらの目の前でがっつり喋り出したの｡

(夏希) えっ そんなことあったっけ？

(美穂) あったよ～｡

(麻美) あった あった｡

しかも その子もさ 紹介されないから微妙に うちらに 申し訳なさそうにしててさ｡

(夏希) 言われてみれば そんなことあったかも｡

(麻美) あ～ しかも… ねぇ 覚えてない？

なっちさ その子 そのまま置いてさトイレ行ったんだよ｡

(美穂) 行った！ マジでビックリした｡

(夏希) えっ そうだっけ？

(美穂) 何あれ｡

(麻美) うちら 仕方なくさ その子と３人でクレーンゲームやったからね｡

(美穂) やった｡

しかもさ あの子 デッカいポッキー取ったよね｡

(夏希) マジで？

(麻美) 取ってた！

(美穂) あの空気の中 ポッキー取れるの すごいよ｡

(夏希) 確かに｡

(麻美) あの子は大物になるね｡

(夏希) え～｡

あっ ちなみに すーさんね｡

(美穂) ん？

(麻美) すーさんっていうんだね｡

(夏希) そう 霞中の すーさん｡

(美穂) 12年越しに名前知れたわ｡

(夏希) すーさん 元気かな？

あっ 電話してみる？

(美穂) えっ しなくていいよ｡

(麻美) 何 話すんだよ｡

(夏希) 今 すーさんの話 してたんだよ って｡

(美穂) いらない いらない｡

(夏希) いらない？ マジで？

(麻美) ウエッティー いる人｡

(夏希) ありがと ありがと ありがと｡

(麻美) あっ 違うよ｡

(美穂:夏希) ん？

(麻美) ごんちゃんよ｡

(夏希) ごんちゃん？

(麻美) ごんちゃん 今 私 現場で一緒なの｡

(夏希) えっ！ ごんみさ？

(美穂) みさごんって東京いんの？

(麻美) あ 知らなかったっけ？

(夏希) うん 知らない｡

(麻美) そうか… ごんちゃんさ 今 メイクさんやってて｡

で たまたま うちのドラマの メイクで入って｡

(夏希) え～ そうなんだ｡

(美穂) みさごんって そういえばさ熊谷ビューティー学院 行ってたよね｡

(麻美) 行ってた｡

(夏希) ごんみさ 元気？

(麻美) うん 元気 元気｡

あっ ちなみに ごんちゃん 今 金髪｡

(夏希) え～！

(美穂) え～ あのみさごんが？

(夏希) ごんみさ どうしちゃったの｡

(麻美) でもね 性格は全然｡

昔の ごんちゃんのまんまよ｡

(夏希) そうなんだ｡

ごんみさ 会いたいな｡

(美穂) ねぇ｡

呼び方 統一しない？

(夏希) ん？ 呼び方？

(麻美) ⟨結局 いつもの どうでもいい雑談だけど何だか 疲れが 一気に吹き飛んだ気がした⟩

⟨ただ…⟩

(夏希) あ～ いたいた…！

(麻美) ⟨田舎の実家暮らしの ２人の音量は東京の集合住宅では大きい⟩

⟨近隣への迷惑によって 徳が下がらないかが少し心配⟩

(美穂) あーちん ごめんね 突然 押しかけて｡

(麻美) ううん 超楽しかった｡

(夏希) ごめんね 床で寝させて｡

(麻美) いいよん｡

(美穂) また急に来るね｡

(麻美) 次からは言って｡

(夏希) 今度はさ あーちんが休みの日に来てさ東京 案内してもらおうよ｡

(美穂) あ いいね｡

(麻美) いいよん｡

それ何の薬？

(夏希) あっ これ？ 整腸剤｡

最近 便秘がひどくてさ｡

(麻美) あ ちょっと待って｡

お茶じゃなくて 水で飲みな｡

(夏希) そんな変わんないでしょ｡

(麻美) いや 体が吸収する時間が 変わってくるんだから正しく飲まないと効かないよ～｡

(夏希) そうなんだ｡

じゃ 頂きます｡

(美穂) 何か あーちん 東京来て しっかりしたね｡

(麻美) これは別に 東京とか関係ないよ｡

(夏希) まずい｡

(美穂) どう？ 効いてる？

(夏希) うん 染みてる｡

(麻美) いい？ 閉めなくて｡

(夏希) じゃ あーちん お仕事頑張ってね｡

(麻美) うん 頑張る～｡

(美穂) ドラマ見るね｡

(麻美) うん｡

よろしく～｡

(夏希) じゃ またね｡

(美穂) バイバイ！

(麻美) 何か寂しいね｡

撮っとこ｡

(夏希) あっ 写真｡

(麻美) ⟨なっちの便秘薬のおかげで 大事なことを思い出した⟩

⟨前回の人生で 私は祖父が 飲んでいる薬の間違いを発見し命を救うことができた⟩

〔このお薬と このお薬 いったん 飲むのやめてくれる？〕

⟨ということは 今回も薬を変えさせないと祖父は死んでしまう⟩

⟨クランクイン前に 気付いてよかった⟩

⟨ナイスなっち！ ナイス便秘！⟩

⟨早速 週末に 私は祖父の元を訪れた⟩

(祖父) どうした？

(麻美) おじいちゃんこのお薬と このお薬を 毎日飲んでるんだよね？

(祖父) うん まだ 飲み始めたばっかりだけどね｡

(麻美) うんうん…｡

あのさ この２つって 飲み合わせが悪いからいったん 飲むのやめてくれる？

(祖父) え～？

(遥) 飲み合わせなんかあんの？

(麻美) うん 一緒に飲むとね 体に悪いんだよ｡

お医者さんでもらってる薬だから 大丈夫だろ？

(麻美) いや これはね それぞれ 処方してる病院が違うからお医者さんも 気付いてないんだと思うよ｡

(祖父) そんなことないだろ～？

お姉ちゃん 何で分かんの？

(麻美) ⟨え？⟩

⟨そう 私は今回 薬剤師ではないので説得力がない⟩

あのさ 医療系のドラマをやった時にすごくお薬のことを 勉強したんだよね｡

(遥) へぇ～ 何のドラマ？

(麻美 息を吸う音)

“コウノドリ”｡

えっ お姉ちゃん “コウノドリ”やってたの？

(麻美) うん｡

(遥) あれって日テレだっけ？

(麻美) ＴＢＳ…｡

⟨他局だった！⟩ だね｡

ちょっと手伝ったんだよね｡

(遥) ふ～ん｡

そんなことあんだね｡

(麻美) ⟨普通は あり得ない⟩

(祖母) それって いつ頃のドラマ？

去年かな？

麻美がやってんなら見たのになぁ｡

知らなかったから 録画もしてなかったわよ｡

(麻美) ごめんごめん ホントにちょっと 手伝っただけだからさ言わなかったんだよね｡

(祖母) そう｡

じゃ ＤＶＤ買わなきゃね｡

(祖父) そうだな｡

(麻美) 大丈夫 平気だよ 買わなくても大丈夫だよ｡

名前も載ってないからさ｡ ⟨無関係だから⟩

(薬剤師) それでは確認してきます 少々お待ちください｡

(麻美) はい お願いします｡

⟨今回も無事 祖父を救うことができた⟩

(麻美) ⟨そして今回も…⟩

⟨彼は勝ち組だった⟩

⟨私と あのまま付き合っていたら きっと こうはならなかった⟩

⟨そう考えれば あの時 別れてよか…⟩

⟨た～しか前回は…⟩

⟨年商10億だった⟩

⟨ということはたった２か月の交際で１億の損失…⟩

⟨見なかったことにしよう⟩

⟨ところで ドラマのほうは 無事にクランクインし撮影は順調に進んだ⟩

(ﾓﾆﾀ) 厳しい指導？

(ﾓﾆﾀ) そういうのあってもいいとは 思うよ いいとは思うけど｡

(助監督) この後 13時15分から 再開になります！

(麻美) ⟨臼田さんとも また一緒に 仕事することができた⟩

(臼田) 麻美ちゃん これ食べた？

(麻美) 私… まだ｡

(臼田) 私さ ２個もらったんだけど もう１個もらっていいかな？

(麻美) もちろん もちろん｡ ⟨ちなみに私が少しだけ 話しづらそうにしているのは実は この撮影が始まる少し前臼田さんとプライベートで ごはんに行って…⟩

〔麻美ちゃんさ ため口でいいからね〕

〔じか箸しちゃう？〕

(麻美)〔いいな 私も食べた～い〕

〔じゃあ ため口で 喋ろう〕

〔ハハハ…〕

(麻美) ⟨この日から 私は ため口で話すようになり距離も縮まった⟩

⟨ただ 周りは その経緯を知らないのでなれなれしく見える 可能性がある⟩

⟨だからといって 敬語で話すと臼田さんに 寂しい思いをさせてしまう⟩

⟨その結果 どっちつかずのふわっとした喋り方に なっている⟩

⟨そして ３か月後⟩

今向かってます 今向かってます｡

来た来た… 早く早く…！

(助監督) え～ ということで 以上をもちましてドラマ“家売るオンナ” クランクアップです！

お疲れさまでした！

(拍手)

(麻美) ⟨“家売るオンナ”は無事 クランクアップを迎え…⟩

📺(ﾅﾚｰｼｮﾝ) 天才的不動産屋 三軒家 万智｡

📺 彼女に売れない家はない｡

(麻美) ⟨放送も好評のまま 最終回を迎えることができた⟩

⟨私は好評どころか続編をやることまで 知っていたけど⟩

📺 オレィ！

(麻美) ⟨入社して７年目⟩

⟨これまでの地道な努力が実り私にも プロデューサーデビューの チャンスが訪れた⟩

⟨もちろん 簡単にできるわけではない⟩

⟨まずは 社内や脚本家や 主演事務所を説得するための企画書を作る⟩

⟨これが通らないと 何も始まらない⟩

⟨逆に 企画書さえ通ってしまえば こっちのものなので企画書では 大風呂敷を 広げられるだけ広げる⟩

⟨それくらい ドラマは企画書が命⟩

え～！ ありがとうございます！

(上司) おめでとう｡

(麻美) ⟨そして ついに 私の企画書が通った⟩

⟨同じ人生をやり直す 女性の物語⟩

⟨“ブラッシュアップライフ”⟩

⟨そう これは私自身の経験を 題材にしたドラマ⟩

⟨ちなみに 実体験だなんて言うと頭がおかしくなったと 思われるのであくまでも フィクションとして プレゼンした⟩

(脚本家) 設定はいいんだけど どうせやり直すならもっと派手な事件とか 起こったほうがいいですよね｡

(監督) 確かに 不倫を阻止する ぐらいじゃ弱いですよね｡

(脚本家) タイムリープする意味 ないですもんね｡

(麻美) なるほど｡

普通に考えたら 人生２周目って相当優秀な人材になると 思うんですよね｡

それこそ ノーベル賞を取るとか｡

(監督) 確かにそれぐらい劇的に変わらなければ おかしいですよね｡

(麻美) そうですね…｡

(脚本家) せっかく未来が分かるんだし もっとこう…｡

死んでしまった 親友の命を救うとかそれくらいは やりたいですよね｡

もしくは 大勢の命を救うとかね｡

(脚本家) あ～ そうですね！

救世主になるくらいに したいですね｡

それいいじゃないですか｡

(麻美) ⟨こうして“ブラッシュアップライフ”は ブラッシュアップされほぼ原形はなくなった⟩

⟨ただ 私はそれよりも自分の人生が 地味だと言われたことに少し落ち込んだ⟩

やっぱ２周目にもなると｡

⟨ところで 打ち合わせの中で私は また大事なことを思い出した⟩

⟨それは 玲奈ちゃんのこと⟩

⟨私は２周目で…⟩

>> 〔結婚してんじゃねえかよ〕

(麻美) ⟨彼女の不倫を阻止した⟩

〔クソが！〕

(麻美) ⟨ということは ３周目も 阻止しなければならない⟩

⟨ただ 今回は１つ問題がある⟩

⟨今回 私は あの薬局に勤めていないので彼が既婚者だということを 知り得ない⟩

⟨だから 彼が既婚者だと 伝えるのは無理がある⟩

📺 30年ぶりの改元となる わけなんですけれども元号を決める際は…｡

(麻美) ⟨改元か⟩

⟨今 ＳＮＳに ｢令和｣って書き込んだらどうなるかなぁ？⟩

⟨国から連絡が来るかなぁ？⟩

⟨ん～⟩

〔ちょうど 令和の元号が発表された日〕

(美穂)〔４年前だね〕 >> 〔４年前か〕

〔その日に 夢庵で ごはん食べてたらそこに たまたま彼がいて〕

(麻美) ⟨その日に玲奈ちゃんが 夢庵に行かないようにして２人が出会わないようにすれば いいんだ⟩

📺 発表は あと７日です 来週月曜日の午前11時半頃です｡

(麻美) ⟨あと７日か⟩

⟨でも 玲奈ちゃんとは 中学以来 会ってなくて連絡先を知らない⟩

⟨前回は たまたま福ちゃんが いたから教えてもらえたけど福ちゃんの連絡先も分からない⟩

あのさ ごんちゃんさ 玲奈ちゃんの連絡先 知らない？

そうそう… そう｡

あ～ まぁ そうだよね｡

うん いや 大丈夫… ありがとね｡

ちなみに 福ちゃんの連絡先 分かったりしない？

はい はい そうですね｡

やっほ～ なっち 今 大丈夫？

うん ねぇ なっちさ福ちゃんの連絡先 知らない？

うん… うん そうだね｡

あのさ みーぽんさ 福ちゃんの連絡先 知らない？

うん 分かんないよね そうだよね｡

うん ありがとね ごめんごめん はい～ じゃあね｡

おやすみ｡

📺 こんなサバ初めてです うま過ぎる！

(麻美) ⟨平成のうちに何とかして玲奈ちゃんとコンタクトを 取らなければいけない⟩

⟨玲奈ちゃんの幸せを守るため⟩

⟨そして 大量の徳を…⟩

📺 あんたが大将～！

(麻美) おはようございます｡

(ｽﾀｯﾌたち) おはようございます｡

(麻美) おはよう｡

(ＡＰ) おはようございます｡

あっ これ ペラ刷ったんですけど いりますか？

(麻美) いる ありがとう｡ >> お願いします｡

(麻美) ⟨脈々と受け継がれる10時くらいから 来ているふうの顔⟩

おはようございます｡

⟨プロデューサーは とにかく打ち合わせが多い⟩

⟨脚本家と 本の打ち合わせ以外にも美術スタッフや…⟩

なるほど なるほど 大丈夫です ５月には撮り切りますから｡

⟨事務所マネジャー⟩

え～！ だって ５月中に撮り切る って言ったじゃないですか～｡

⟨スケジューラー⟩

初回拡大ですか？ >> 15分拡大です｡

(麻美) お～！

⟨編成⟩

こういうポップな方向性よりも これでいきましょう これ｡

⟨宣伝部⟩

えっ これって そんなお金かかるんですか？

⟨著作権契約部⟩

これは？

最後お２人に “ＺＩＰ！”って…｡ ⟨他番組のスタッフなどとにかく打ち合わせる⟩

⟨そのうち いくつかは電話やメールのやりとりで 済んだのでは？⟩

⟨…というものもある⟩

⟨多分 向こうも そう思っていると思う⟩

⟨そんな準備で忙しい中…⟩

折り返しても大丈夫ですか すいません 失礼します｡

はい｡

⟨事務所マネジャーからの 売り込みも よくある⟩

お疲れさまです｡

(麻美) ⟨仕事なんだろうけど タイミングというものがある⟩

⟨この忙しい時期に 知らない役者さんの３時間半にも及ぶ舞台を 見に行けるはずがない⟩

⟨このタイミングの 執拗な売り込みは正直めんどくさい⟩

⟨本人に罪はないけど｢絶対オファーしない｣ と心に誓う⟩

⟨クランクインまで １か月を切ったある日私は仕事を早く切り上げ 地元に帰った⟩

すいません ラウンドワン 分かります？

♪～

あっ いらっしゃいませ お客様 １名様ですか？

(麻美) ちょっとお伺いしたいんですけど｡ >> はい｡

(麻美) 福田君って 今日いらしてますか？

>> 今日は来てないですね｡

(麻美) そうなんですね｡

そっか｡

私 福田君の 小学校の同級生なんですけど連絡先って教えていただくこと できますかね？

連絡先ですか いや それはちょっとできないですね｡

(麻美) そうですよね～ そっか そっか｡

そしたら…今 電話していただけますか？ 福田君に｡

>> 電話ですか？

(麻美) 大変申し訳ないんですけど｡

ちょっと急用があって｡ >> 少々お待ちください｡

(麻美) すいません ホント申し訳ないです｡

お願いします｡

(麻美) ⟨あぁ… めんどくさいヤツ来た って思われてるなぁ⟩

>> あっ ちょっと出ないです～｡

(麻美) あ～！

分かりました｡

どうもすいません 失礼します｡ >> いえ ありがとうございました｡

(麻美) 失礼します｡

⟨捜査は 振り出しに戻ってしまった⟩

⟨この中で玲奈ちゃんの連絡先もしくは 福ちゃんの連絡先を 知っている可能性があるのは…⟩

⟨しーちゃん⟩

⟨ただ 彼女はそろそろ 離婚している可能性が高くさすがに 別れた夫の連絡先は聞きづらい⟩

(スイッチを押す音)

(麻美) ⟨バカなふりして聞いてみるか⟩

(麻美) あっ もしもし しーちゃん？

麻美です｡

あのさ しーちゃんさ 福ちゃんの 連絡先 教えてもらえない？

うん｡

あっ… そうなんだ｡

⟨やっぱり別れてた⟩

⟨ただ今 バカなふり中⟩

そうか～ いや ううん 私はね福ちゃんに用事があった っていうよりかは玲奈ちゃんに ちょっと連絡したくって福ちゃんなら知ってるかなと 思ったの｡

あっ マジで？

アハハ うん 助かる｡

じゃあ ショートメールで 送ってもらっていい？

ありがとう｡ ⟨やってしまった～⟩

⟨まず 玲奈ちゃんの連絡先を 知ってるか聞くべきだった⟩

じゃあね｡

⟨バカなふりではなく 本当にバカだった⟩

あっ もしもし｡

玲奈ちゃん？

えっと 麻美です 近藤麻美です｡

そう あーちん あーちん｡

久しぶり～｡

うん しーちゃんから聞いたの｡

ねぇ プロフィール帳 やったよね～ そうそうそう｡

でさ… そう 集めてたね｡

何か 玲奈ちゃん 当時 石崎君のこと…｡

⟨いきなり ごはんに誘うのは変なので取りあえず 昔話をして盛り上がる⟩

⟨そして 自然の流れで…⟩

ねっ 会いたいよね～ うん｡

ちなみにさ 玲奈ちゃん ４月１日ってどうしてる？

あっ｡

そっか… うん 全然 約束あるならしょうがないよ｡

は～い バイバ～イ｡

⟨断られた…⟩

⟨どういうこと？⟩

あぁ…｡

⟨その約束が 当日に急きょなくなって１人で夢庵に行くことになる ってことか⟩

(麻美) ⟨新しい元号の発表に 日本中が注目する４月１日⟩

⟨私は再び 地元に帰り玲奈ちゃんが訪れる 夢庵に向かった⟩

(麻美) ⟨ただ いつ来るか分からないので念のため 午前中から張り込み⟩

⟨この席なら見逃すことはない⟩

⟨取りあえず ごはん食べよう⟩

(ｲﾔﾎﾝ) 新しい元号は｢令和｣であります｡

(ｲﾔﾎﾝ 複数のカメラのシャッター音)

(店員) お待たせいたしました｡

｢夢庵御膳｣でございます｡

(麻美) ありがとうございます｡

(店員) ごゆっくりどうぞ｡

(麻美) は～い｡

⟨長期戦に備えて スタミナをつけておく⟩

⟨失敗した～⟩

⟨いきなり こんながっつり系で お腹いっぱいになったら長期戦になった場合 ﾄﾞﾘﾝｸﾊﾞｰだけで 長居することになる⟩

(店員) 失礼します こちら お下げしてもよろしいでしょうか｡

(麻美) ごちそうさまです｡ >> 失礼いたします｡

(麻美) ⟨ん～ パソコン持ってくれば よかった～⟩

(麻美) ⟨申し訳ないから 何か頼もう⟩

お待たせいたしました｡

｢ｼｬｲﾝﾏｽｶｯﾄ｣でございます｡

(麻美) はい｡

>> ごゆっくりどうぞ｡

(麻美) は～い｡

⟨本当に ゆっくりさせてもらう⟩

お待たせいたしました｡

｢ﾁｮｺﾚｰﾄﾊﾟﾙﾌｪ｣でございます｡

(麻美) はい｡

>> ごゆっくりどうぞ｡

(麻美) は～い｡

⟨引き続き ゆっくりさせてもらう⟩

お待たせいたしました｡

｢ほうれん草のおひたし｣で ございます｡

(麻美) はい｡

>> ごゆっくりどうぞ｡

(麻美) は～い｡

⟨既に かなり ゆっくりさせてもらっている⟩

⟨少しずつ混んできた⟩

⟨そろそろ気まずい⟩

(来店のチャイム)

１人で｡

(店員) かしこまりました｡

お好きなお席 どうぞ｡

あーちん？

(麻美) 玲奈ちゃん｡

>> えっ １人？

(麻美) うん １人｡

玲奈ちゃんは？ >> 私も１人｡

急に約束なくなっちゃってさ仕方ないから １人でごはん食べようと思って｡

(麻美) そうなんだね～｡

あーちんに 連絡しようかと思ったんだけどもう約束入れちゃってるよな って思って｡

え～ 何だぁ 電話すればよかった｡

(麻美) でも会えたからよかった｡ >> ねぇ すごい偶然｡

もう ごはん食べちゃった？

(麻美) あ いや｡

う～ん これから｡ >> あっ ホント？

じゃ 一緒にごはん食べよう｡

(麻美) うん 食べよう｡

(麻美) ねぇ せっかくだからさ 別のお店行かない？

大丈夫 大丈夫 ここで食べよう｡

(麻美) そうする？ >> うん｡

(麻美) ⟨マズい… どうしよう⟩

⟨宮岡さんが来ても お互い 気付かないようにするしかない⟩

どうする～？

今日は私 おごるから 好きなの頼んで｡

(麻美) えっ？ いいよ｡ >> いやいや いいよ いいよ｡

お誘い断っちゃったし…｡

(麻美) いい いい いいよ｡

>> ホントに今日は おごらせて｡

(麻美) え～～｡

いいの？ >> うん！ もちろん 好きなの頼んで｡

(麻美) じゃあ… お言葉に甘えて ありがとう｡

⟨おごってくれるのは ありがたいのだけど私は これ以前に｢夢庵御膳｣と｢ｼｬｲﾝﾏｽｶｯﾄ｣と ｢ﾁｮｺﾚｰﾄﾊﾟﾙﾌｪ｣と｢ほうれん草のおひたし｣を 食べている⟩

あ～ 玲奈ちゃんさ私 実はさ 今日 お昼からここにいるのね｡

>> えっ そうなの？

(麻美) そうなのよ 実はね｡

でさ 昼間にさ 結構 食べちゃって｡

>> あぁ すごい食べたね｡

(麻美) そうなのよ｡

だから もし これを払うってなると相当の額いっちゃうから 全然おごらなくて大丈夫だわ｡

>> いいよいいよ 大丈夫大丈夫｡

(麻美) いや いいよ｡

大丈夫 先週 給料入ったし おごらせて｡

(麻美) え～ 何か ごめん 悪いね｡ >> あぁ 全然 全然｡

てか 何で 今日 昼からここにいるの？

(麻美) あぁ そうそう… 何かね そうなんだよね｡

仕事のメールとか返してたら こんな時間になっちゃったわ｡

>> そっか 大変だね｡

(麻美) うん…｡

>> もう平気？

(麻美) うん もうね 終わったから全然 大丈夫｡ >> そっか｡

もしかして お腹いっぱい？

(麻美) ううん 全然大丈夫｡

食べる｡ >> あ ホント？

(麻美) ⟨お腹は 何だかんだで すいている⟩

(玲奈) 会うのって いつぶりだっけ？

(麻美) 玲奈ちゃん 成人式 来てないよね？

>> 行けなかったんだよね｡

(麻美) うん そうだよね｡

じゃあ 中学校ぶり？

アハハ え～ じゃあ もう 14年ぶりとか？

(麻美) ヤバ… そうだね｡

みんなと会ってる？

(麻美) 私 なっちとみーぽんと 帰ってきたら絶対ごはん行ってる｡

>> え～ いいな 今度 私も誘って｡

(麻美) 誘う 誘う｡

玲奈ちゃんは誰か会ってる？

私はね しーちゃん夫妻とは 何回か一緒にごはん食べたよ｡

(麻美) そうなんだね｡ >> でも ２人別れちゃったんだよね｡

(麻美) そうなんだよね～｡

私 ちょくちょく しーちゃんの相談に乗ってたの｡

(麻美) そうなんだ｡ >> うん｡

一緒に福ちゃんのライブとか 行ったりもしたんだけど｡

あっ ＣＤも買ったよ｡

(麻美) え… あぁ えぇ そう｡

私 福ちゃん 才能あると思うんだよね｡

(麻美) ふ～ん｡

>> 福ちゃんの歌 聴いたことない？

(麻美) あっ ううん成人式の時に カラオケで１回聴いたかな｡

>> うまいよね｡

(麻美) う～ん｡

曲とかも超良くてさ｡

私 幼なじみとか関係なく普通に移動中とか聴いてるし｡

(麻美) へぇ～｡

まぁ アイドル的な売り方じゃ ないから時間かかるかもしれないけど いつか絶対売れると思うんだよね｡

(麻美) そう… だねぇ｡

⟨玲奈ちゃん 福ちゃんは絶対売れないしもうすぐ やめるよ⟩

えっ 私 “けもなれ” 毎週欠かさず見てたよ｡

(麻美) ホントに？ え～ 超うれしい｡

あーちん あれ関わってたんだ すご～い｡

(来店のチャイム)

(店員) いらっしゃいませ｡

(宮岡) １人｡

(店員) お席 ご案内いたします｡

(麻美) このさ 一番下の天ぷら 何なんだろ？

キスかな？

(麻美) ⟨え～ そんな近くに座るの？⟩

⟨どうしよう⟩

あっ そうだ ねぇ ちょっと これ見て｡

>> 何？ 何？

(麻美) これさ現場のオフショット｡

えっ すご～い ガッキーじゃん｡

(麻美) そうそう 私さ ＳＮＳ担当してたからこういう写真めっちゃ持ってんの｡ >> そうなんだ～｡

てか 私 フォローしてたよ｡

(麻美) えっ マジで？

あれ 書いてたの 私なんだけど｡ >> あれ あーちんの文章だったの？

(麻美) 全部 私だよ｡ >> え～ すごいね｡

(麻美) ⟨何とか鉢合わせずに 食べ終わって お店を出たい⟩

(玲奈) やってたね セーラームーンごっこ｡

(麻美) ほぼ マーキュリーごっこ だったけどね｡ >> そうだっけ？

(麻美) みんな マーキュリー選んじゃうの｡

>> アハハ 確かに人気だったもんね｡

(麻美) そうそうそう｡

⟨あと少し！ その小鉢を食べ終われば…⟩

そういえばさ 遥ちゃん 元気？

(麻美) うん 今ね 熊谷アーキテクトで働いてるよ｡

え～ 待って 遥ちゃん 今いくつ？

(麻美) もうね 24｡ >> あ～ もう そんななんだ｡

(麻美) ⟨そんなことより早く 小鉢を！⟩

何かさ 遥ちゃんって 私の中で…｡

(麻美) ⟨早く！ さぁ！⟩

>> 全く想像つかない｡

(麻美) 全然 大人だよ もう｡

>> そうだよね～｡

(麻美) ⟨早く！⟩

⟨その小鉢を！⟩

(宮岡) 玲奈ちゃん？

(麻美) ⟨あっ…！⟩

⟨くぅ…⟩

>> 宮岡です｡

(玲奈) あ～ 宮岡さん｡

お久しぶり｡ >> お久しぶりです｡

何か見たことあるなと思ったら…｡

(麻美) ⟨まぁ そうなるよね⟩

⟨この距離だしね⟩

前のバイト先で一緒だった 薬剤師の宮岡さん｡

幼なじみの あーちんです｡ >> こんにちは｡

(玲奈) 宮岡さん １人でごはんですか？

(宮岡) そうだよ｡

玲奈ちゃん 今日休み？ >> はい｡

ちなみに ここも 14年ぶりの再会なんです｡

そうなんだ 邪魔してごめんね｡

(玲奈) いえいえ…｡

(麻美) ⟨さすがに私がいたら 合流してこないか⟩

⟨よかった⟩

そろそろ行く？ >> 最後 もう１杯だけ飲んでもいい？

(麻美) あ… うん｡

あーちんも何か飲む？

(麻美) 私は大丈夫｡ >> は～い｡

(麻美) ⟨このまま帰れば ２人はこれ以上 距離を縮めることは…⟩

⟨ウッソ!? 油断した～！⟩

⟨やめて！ やめて！ やめて！ やめて！⟩

⟨あっ あぁ…⟩

⟨間に合わなかったぁ～！⟩

(宮岡) じゃあ また｡

(玲奈) はい また｡

(麻美) ⟨あのギョウ虫…！⟩

あーちん いつまでいれるの？

(麻美) 私はね あしたの昼に東京帰ってで 夕方から打ち合わせ｡ >> そうなんだ 大変だね｡

(麻美) でも あれでしょ 玲奈ちゃんも あした早いんでしょ？

そうだね｡

(麻美) またさ こっち戻ってきたら ごはんとかしようよ｡ >> うん！

(麻美) また連絡するね｡ >> うん 私もする｡

私 あっち…｡

(麻美) じゃあね｡

バイバイ！

(麻美) じゃあね 気を付けてね｡ >> あーちんもね｡

(麻美) ⟨どうしよう… ２人は連絡先を交換したけど距離が縮まるのは もう少し先⟩

⟨ただ このままだと 確実に不倫関係になってしまう⟩

(麻美) ⟨翌朝 私は予定よりも かなり早めに家を出た⟩

(足音)

(麻美 ノック)

はい？

(麻美) すいません 昨日 夢庵で 森山玲奈ちゃんと一緒にいた近藤という者ですけれども｡ >> あ～ どうも｡

(麻美) お仕事前にホント 申し訳ないんですけれどもちょっとだけ お時間いいですか？

え？ あぁ はい 何でしょう？

(麻美) すいません｡

失礼します｡ >> えっ？ えっ？

(麻美) すいません あの そんなに お時間取らせないんで｡

はあ…｡

(麻美) 玲奈ちゃんとは どのようなご関係ですか？

どのような？

いや 前に働いてたお店で よく一緒になってて｡

(麻美) あ～ そうなんですね 連絡先 交換してましたよね？

はい しましたけど｡

(麻美) 私 玲奈ちゃんとは 保育園からの幼なじみであの子 昔っから すごく素直で ホントにいい子なんですよね｡

うん…｡

(麻美) だから 絶対に 幸せになってほしいんですよ｡

はい… え？

(麻美) 彼女に 手 出さないでもらえます？

>> えっ？

(麻美) お願いします｡

いやいや 別に手を出すとか そんなつもりないですけど｡

(麻美) あぁ そうなんですね だったら いいんですけど｡

いや その前に いきなり来て 失礼じゃないですか？

(麻美) すいません １つだけ 実は気になったことがあって｡

>> 気になったこと？

(麻美) はい｡

宮岡さん 既婚者ですよね？ >> え？ そうですけど…｡

(麻美) 奥さんいるのに 大丈夫なんですか？

いやいや 彼女は妹みたいな感覚だからそんなつもり全くないですよ｡

もういいですかね？ そろそろ 行かなきゃいけないんで｡

(麻美) どうして途中で 結婚指輪 外したんですか？ >> え？

(麻美) お店に来た時には 結婚指輪つけてたのにドリンクバーで玲奈ちゃんと 連絡先 交換している時には外してましたよね？

>> 外してましたっけ？

(麻美) 外してましたね｡

何でですか？

いや 別にそれは そんな深い意味は｡

(麻美) そうなんですね そういうつもりが ないんだったら別に外す必要なくないですか？

何か そういう可能性を 感じちゃったから外しちゃったんじゃ ないんですか？ >> いや｡

そうじゃなくて…｡

食事をする時に邪魔だったから｡

(麻美) じゃあ 食事をする時には毎回 いつも外されてる…｡ >> 外してますよ！

もういいかげんにして もらえますか｡

(麻美) すいません｡

うん ちょっとそこだけ 気になっちゃったんで｡

ホント そんな変な意味ないんで もういいですか？

(麻美) あ はい… したら もう取りあえず 今後 玲奈ちゃんに近づかないでもらっても いいですか？

>> 分かった 分かった もう近づかないから｡

(麻美) はい｡

じゃあ それ信じますね｡

その代わり 今後 玲奈ちゃんが 悲しむようなことあったら私 絶対許さないんで｡

しないってば｡

(麻美) 分かりました はい｡

じゃ 失礼します｡

♪～ “恋のメガラバ”

(麻美 車のドアを閉める音)

何なんだよ もう｡

♪～

(麻美) あと｡ >> 何？

(麻美) お店に早く着いた日にはご自分で 鍵をお開けに なったほうがいいと思いますよ！

え？

♪～

(麻美) ⟨確実に ヤバいヤツだと 思われたけどあれだけ言えば大丈夫なはず⟩

♪～

(麻美) ⟨ホント言うと…⟩

♪～ “恋のメガラバ”

〔てめぇ よくも私の大事な時間 無駄にしてくれたな クソが！〕

〔今すぐ連絡先 消せ〕

〔じゃねえと てめぇの職場 突撃するからな！〕

〔分かったか!?〕

(麻美) ⟨あれ もう１回 見てみたかった気もするけど⟩

⟨玲奈ちゃんのためには これでよかったしこっちのほうが きっと 徳も積めたはず⟩